



大門小だより

1月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

令和2年1月7日

横浜市立大門小学校

動いていく 変わっていく まち

校長 佐藤 峰子

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお喜びを申し上げますとともに、子どもたちや保護者、地域の皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。今年も子どもたちの健やかな成長を願い、教育活動の充実に向けて、職員一同努力してまいりたいと思います。皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

2020年、令和2年が始まりました。今年、東京で2回目となるオリンピック・パラリンピックが開催される年です。暮れには、全国を巡る聖火リレーのルートの決定や、各界から選出された多彩なランナーの紹介があり、様々なメディアでオリ・パラリンピックが取り上げられていました。オリンピックの開催が7月24日から8月9日、パラリンピックの開催が8月25日から9月6日と、日本の暑い夏に熱戦が繰り広げられることでしょう。「おもてなし」という言葉が流行語大賞となったオリ・パラリンピック開催決定から、すでに4年がたったということに感慨深いものがあります。新しい国立競技場や海の森水上競技場ができるなど、様々な施設・道路等も整備され、「動いていく 変わっていく まち」を感じる方が大勢いらっしゃると思います。

私たちが住んでいる「まち」も変化の年を迎えています。本校の学区にある瀬谷本郷公園は、「瀬谷本郷公園はらっぱ広場」とし、2020年に利用開始となるよう現在急ピッチで整備が進んでいます。「はらっぱ広場」の構想には、平成27年度に本校に在籍していた子どもたちが、様々な提案をしています。生き物とふれあい観察ができる池や木、発表できるひな段、瀬谷カルタを取り入れた道案内、寝転がれる草原、難易度がある遊具等アイディアスケッチを添えて提案したことが、形となって、地域の皆さんに利用していただいている姿を想像すると、わくわくします。

また、「横浜・上瀬谷通信施設跡地」の活用について、昨年12月11日に市長が、テーマパークを核にした複合施設誘致の考えを明らかにしました。1月から瀬谷駅を起点とした「新たな交通」の導入に向けた取組も進められるようです。花博の開催も含めて、具現化するには多くの年月がかかると思いますが、約242ヘクタールの広大な跡地に、夢を盛り込み、地域活性化が図れたら素敵だなと思います。幅広い層での論議を積み重ね、国内外から多くの方が瀬谷の地を訪れるような「まちづくり」ができればと思います。

学校も、春になると色鮮やかな桜が咲き、創立以来楽しませてくれたソメイヨシノを4本を伐採しました。新たに神代曙を植える予定です。ソメイヨシノの花に似ており、咲く時期が近く、丈夫であることで決定しました。池もリニューアルしました。経費をおさえるために、職員手造りの力作です。

今年の干支である「子」は、十二支の一番目で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年といわれています。子どもたちとともに、大門小学校の新たな一歩を踏み出そうと思っています。